

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている			
	やや良くなっている	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	販売量の動き	・例年より土用丑の日の注文が入っている。ただ、店で焼くという売り方が受け入れられてきたのか、値段だけではないということなのかは分からない。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・客単価はほぼ前年並みに戻りつつある。時計や宝飾品等の高額品の動きが良かった。中元が法人を中心に苦戦したものの、客単価は上がっており、少し回復の兆しがみられる。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・回復していた宝飾品や時計が苦戦している。また外商部門が中元も含め苦戦している。子ども手当の支給で期待された子供服に関してはその効果は感じられないが、婦人、紳士服の動きが良くなっている。総じて、3か月前と比べると良くなっている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・青果物の単価が3か月前と比べてかなり上昇している。価格競争による価格の下落も落ち着きを取り戻し、価格競争も沈静化し始めている。そういったなかで、単価の上昇傾向がみられる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数が前年並みとなり、客単価も前年並みに戻っている。今までなかった無駄な物を買うという購買状況が少しみられる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・大雨があったにもかかわらず衣料品を除き食品、住関連の販売点数が前年並みに戻っている。特にギフト商材や生鮮食品、日用雑貨の伸びが前年比3%増となっている。
		スーパー（総務担当）	それ以外	・猛暑の影響からか、前年割れしていた住居用品の売上が好調となっている。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・景気が悪化してから1年が経過し、天候も梅雨から暑い夏と例年同様の動きで、前年を上回って推移している。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・売上は量販店が前年比108.9%、コンビニエンスストアは同96.0%、ローカルスーパーは同99.7%となっている。300円以下の弁当が好調に推移している。
		コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・猛暑の影響もあるが、来客数が前年と比べて大きく伸びている。それに対して客単価は前年を下回っており、総じて前年割れの状況である。しかし来客数が伸びているという部分は評価すべきである。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・休みもなしに催事を頑張っており、売上は少し上向いている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・長雨が続いたが、エアコンの販売動向は若干持ち直している。テレビの販売台数は大きく伸びているが、単価が低く、台数は前年比180%、金額は同120%ぐらいという状態である。やや良いといっても、冷蔵庫や白物関係が出てないこともあり、3か月に比べると若干良いが長くは続かない。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・梅雨明け直後からの猛暑により、季節商材が好調に動き始めている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度が間もなく終わるため、駆け込み需要が発生している。
	乗用車販売店（管理担当）	お客様の様子	・エコカー購入補助金制度が9月末で切れるため駆け込み需要が発生しており、来場者数がやや増加している。ただこの制度も限度があり、車種によっては登録が間に合わないということも発生している。	
	乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・自動車業界は9月までのエコカー購入補助金制度があり、駆け込み需要がある。7月はここ2、3年にない販売量を出すことができた。しかしこれは9月までの駆け込み需要と考えられ、10月以降先行きがどうなるか心配である。購入単価は、ハイクラスの車種を購入する客が増えている。	
	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	販売量の動き	・販売量は前年比105%と若干増加している。夏場の中元シーズンに合わせて客単価も上がっている。ただ前年に比べると高額商品ではなく、2,000～3,000円程度の商品が中心となっている。	
	高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・先月に比べ、来客数が増えている。	

	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	販売量の動き	・同業他社の前年度決算をみると、大手は黒字であり、当社においても4月から3か月連続で売上が上昇している。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	来客数の動き	・各業者、販売店の努力により経費削減するなかで、来客数は上昇している。根本的な景気の上向きというところには至っていない。
変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・商品単価が低くなっており、高額商品が売れず、売上が伸びない。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・梅雨の時期は雨ばかりで客の出足が鈍かったが、7月下旬から地域振興券を販売し、その分、持ち直している。
	商店街（代表者）	それ以外	・来客数、販売量共に悪い。一方で、空き店舗だった所に新しい店がオープンしたことは良かった。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・今月は雨が長引いたので、人出が目立たず、来客数が少ない。ただ飲食店をみると、観光客が高額品を注文するか、低価格の定食に抑えるか、2極化している。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・毎年この時期、商店街では夜間営業を行っているが、今年は極端に来街客数が減少している。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・消費者の節約志向の強まりから、購買意欲の低下により、来客数や買上点数の減少がみられる。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・ボーナスが支給され、3か月前と比べると客の動きが良くなっているが、売上の増加はわずかであり、変わらない。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・中元や初盆の返しの注文は例年と変わらず入っているが、全体の売上は前年以上には至っていない。来客数に変動はなく、商品単価は相変わらず低い。梅雨明けから暑い日が続く、冷茶を購入する客が増えているが、これも単価が低いので、試飲してもらい購買意欲を高めている。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・クリアランス時期になって価格が下がっても、客は価格に敏感で衝動買いをほとんどしない。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・土日祝日の来客数が好調に推移しており、特に土曜は夕方まで多くの客が滞留している。一方、日曜は依然として客の引きが早く、平日も大きく落ち込んでおり、全体としては変わらない。ギフトセンターも同様の傾向で、中旬は抽選券つき売出しが開始され来約数が増えたものの、前半は苦戦した。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・4月から継続して来客数のマイナス傾向が続く。客単価は4月にマイナスとなったが、5月以降は前年比プラス傾向で推移している。客の様子は、5月に高額品の動きが一時あったが、現状は高額品の接客時に株価の話が良く出ており、株価低迷が高額品の売上低迷の要因になっている。
	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・売上は前年比100%で、同業他社の大型店もいずれもほぼ同100%で推移している。これまで低調であった衣料品の売上が前年をクリアしている。客単価は前年並みであるが、1品単価が前年比2%プラス、購買率も同3.1%程度上がっている。7月1～16日までが前年比97%、17日以降が前年比110%となっており、夏モードに入り、売れ始めている。ギフトも前年並みで前年比99%となっている。
	百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・依然として前年を下回って推移している。買上点数は食品を中心に前年を超えて推移しているが、来客数は減少し、客単価、1品単価共に前年を下回って推移する。唯一ギフトの受注は前年実績を超えて推移しているが、衣料関係のクリアランス商材の不足感で苦戦が続く、全体を押し上げるには至っていない。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・夏物の処分期に入り、割引での販売に伴い、価格訴求を行うも、客の購買意欲は高まらない。値ごろ感よりも、お金を使うことに慎重になっている。購買の決定も時間がかかる客が多い。必要な物しか買わないという意識が徹底されている。	

百貨店（企画）	販売量の動き	・売上高は、3か月前は前年比96%であり、今月も同様に推移している。今月は中元商戦と夏物処分セールが主体となり、年間で2番目に売上の大きい月である。特に中元商戦の動きに左右される月であるが、定番商品は大きな落ち込みなく推移している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・店をディスカウントスタイルにして、青果の粗利を10%下げ、一般加工食品の品量を少なくしている。来客数が今のところ前年比15%伸びている状況である。毎日安く売れば、客が来るような状況である。売場形態を変え、競合店に勝っているのをこれを継続させていく。衣料品は相変わらず苦戦しており、夏物衣料のバーゲンも懸念される。
スーパー（店長）	販売量の動き	・梅雨明け以降猛暑日が続く、夏物関連の商品は動きが良くなっている。特に食品では飲料関係が良く動き、衣料品もこの暑さでやや動いている状況である。ただ全体としては従来の節約志向、デフレ傾向が続いており、全体を大きく押し上げるまでの要因とはなっていない。
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・今年は例年よりも梅雨明けが1週間ほど早く、そのなかで晴天と猛暑が続いているが、思ったほど景気が上向いていないため、季節商材を中心に販売量は今一つ動いていない。販売促進強化を行い、なんとか前年比100%を確保している状況でありあまり変わっていない。
スーパー（業務担当）	お客様の様子	・現在進行中の中元商戦や夏物処分セールの状況をみると、客の買上点数や平均買上単価には、冬物や春物商戦の時期と比べてほとんど変動がみられない。食料品に関しては若干、来客数が増加傾向にあるが、購入品の中身や平均単価はむしろ低下傾向が見受けられる。
コンビニ（経営者）	単価の動き	・コンビニという業態は、来客数を増やすことが非常に難しい。目的外の客が大半であるが、それ以外にプラスもう1、2品買うといった購買動向が依然としてない。販売単価も落ち込んでいる状態が続いていることから、不景気な状態が続いている。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・目的買い以外のプラスもう1品買いの客が少ない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前半は大雨、後半は猛暑となり、客がいない状態が続いていたが、20日以降は客が暑さに慣れ、少し客足が戻っている。
衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・セール中の来客数は前年並みであるが、購入枚数が少ない。単品買いの客が多く、売上は前年に届かない。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・3か月前の4月は正価販売でまずまずの動向であったが、現在のセールは、30%オフから始まり最初の動きは良かったが、同業他社が50%、70%と割引をどんどん大きくし、弊社も前年より早めに割引幅を大きくしている。売上は前年並みとなっているが、利幅が少し下がっている。やはり値段を下げないと客の購買につながらない。
衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・依然として単価下落の傾向が改善されていない。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度等のおかげで新車販売が好調に推移している。ただし、車検等は当社より価格の安いガソリンスタンドやユーザー車検に流れている状況が散見され、新車だけが国の施策の恩恵を受けている状態である。手放しでは喜んでいられない。
住関連専門店（店長）	単価の動き	・来客数、買上点数は増加傾向にあるが、単価は相変わらず前年を下回っている。安い物を求める傾向はまだまだ続いている。また、家具やエクステリア商品は依然として厳しい。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	お客様の様子	・客の様子をみると、賞与は支給されたが、消費に向けようとする意欲が低い。最低必要品の最寄品は購入するが、付加価値がある買回り品の購入については慎重な姿勢がつかえる。

	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕(支配人)	来客数の動き	・客の様子や販売動向をみると、先月までは少し回復の兆しがあると感じていたが、ここきて、また悪い状況に戻っている。
	その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕(従業員)	来客数の動き	・空港での土産などの販売数量及び販売金額が、3月より1日当たり3～4万円減少している。
	スナック(経営者)	単価の動き	・来客数は若干戻りつつあるが、客単価が低く、売上の伸びにつながらない。
	その他飲食〔居酒屋〕(店長)	来客数の動き	・7月はサッカーワールドカップや参議院選挙などで、商店街には客が少なく、客呼びもできないぐらいであった。
	観光型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・レストランをリニューアルし、オープン特需で売上が上がっている。一般宴会、婚礼共に予算達成する。
	都市型ホテル(スタッフ)	単価の動き	・客単価が減少傾向にあり、販売数でカバーしている状況である。
	都市型ホテル(副支配人)	販売量の動き	・団体予約は例年通りに入っているが、個人は単価が低くなっている。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・夏休みの予約は海外リゾートや首都圏のテーマパークなど家族旅行を中心に回復している。話題の東京スカイツリーや平城遷都1300年祭でにぎわう関西の動きも良いが単価の減少傾向が続く。近場旅行は高速道路の無料路線拡大で、マイカー旅行が主流となっている。
	旅行代理店(業務担当)	販売量の動き	・販売量は前年を上回って推移しているが、一昨年の同時期には追い付いていない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・今月もNHK大河ドラマの放送によって、長崎の観光はいくらか潤っており、タクシー利用も増加傾向のまま変わらない。また気温が非常に高い日が続いているので、タクシーを利用する客が前年を上回って推移している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・今月から市内各所でいろんなイベントがあるが、全体的に人出が少なく、タクシー利用者が少ない。また日中を通して繁華街も閑散としている。夜はとくに悪く、売上減少傾向のまま変わらない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・今年は梅雨明けそうそう非常に気温が高い日が続いているので、もっと客が動くかと思われたが、あまり気温が高すぎて皆家から出ないため、3か月前と比べてあまり変わらない。
	通信会社(管理担当)	それ以外	・資金繰りが厳しい状態は3か月前と変わらない。
	通信会社(業務担当)	販売量の動き	・今月も新商品が発売された直後は、来客数、販売台数共に伸びているが、その他の商品の動きは活発ではなく、全体として販売台数は減少している。
	ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・4～7月と雨天の多い天候不順が続いたが、梅雨明けにより雨天は終わった。しかし、逆に猛暑が続いている。暑すぎても客入りは悪く、客足は伸びない。
	競輪場(職員)	単価の動き	・売上などの状況に変化がみられない。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・例年は夏休みは来客数が上向くが、客の財布のひもが固く、今年は上向く見込みがない。
	住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・宅建不動産業の土地仲介売買は、物件の問い合わせも多くなか、成約数も前月よりなくなっている。不動産の流通の状況が非常に停滞している。
	その他住宅投資の動向を把握できる者〔住宅情報誌〕(経営者)	販売量の動き	・不動産業界、建設業界の広告を受注しているが、廃業が目立つようになり売上の減少が続いている。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・少し上向きで動いていたが、梅雨になって落ち込み、梅雨明けると猛暑となり人の動きが悪くなっている。それだけではなく客は物を買わない傾向が強まっている。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・今月は中旬にかけて降雨量が多く、われわれ商店街は前年も今年も水害で、大変厳しい。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・宮崎は口蹄疫の影響で来客数が減少し、旅行者が減っているため、通行量がかなり落ち込んでいる。

		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・ 口蹄疫の状況がようやく解決の方向に向かいつつあるが、県内の経済状況は冷え込んでおり、消費回復には時間がかかる。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・ 口蹄疫の影響が客の購買意欲が下がっている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・ 梅雨明けが遅く、夏場の商品の売行きが前年を大きく下回っている。7月後半は天候が良くなり飲料、アイスの売上は大きく伸びているが、7月初めの売上不振から今月は前年を下回る。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・ 毎月のキャンペーンは公務員のボーナスが出た直後だったせいとか好調であったが、店舗売りのほうが、売出し企画をしなかったせいで全く良くない。特に新築やプライダルの高額品、大口の売上がなかった。
		その他専門店【書籍】（店長）	販売量の動き	・ 3か月前は好調な月であったので、それと比較するとやや悪くなっている。梅雨明けあたりから徐々に回復傾向にあるが、株安と異常な円高が景気の回復を遅らせている。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・ 7月の月初めは株主総会などの流れで結構予約が入っていたが、後半にかけてぱったり止まってしまう来客数が伸びなかった。8月もあまり接待の機会がない様子で、今のところ苦戦することが見込まれる。
		高級レストラン（専務）	単価の動き	・ 口蹄疫の影響で身動きが取れない状態が続いており、イベント中止の余波を受け、県外から鹿児島への流れが全くなり、非常に悪い状態が続いている。
		観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・ 6月に比べれば、7月は夏休みにもなるため、少しは良くなるが、全体的に来客数は少ない。
		観光ホテル（総務担当）	来客数の動き	・ 宿泊者数が減少しているうえ、レストランの来客数や宴会の来客数が減っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ 口蹄疫の影響で県内外の人の動きがないので、昼も夜も人がまばらでタクシーも動かない。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・ 個人消費の落ち込みにより、夏場になって新規加入者数が伸び悩んでいる。良い方向に進む気配はみられず、今後景気は更に厳しく、悪い状況になっていく。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・ 限られた客の奪い合いとなっており、売上の伸長に対して販売促進費用が重くなっている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・ 今月も引き続き口蹄疫の影響を受けている。例年7月に毎週開催されるイベントのほとんどが延期あるいは中止となっている。7月27日以降での再度仕掛けと8月の盛り返し作戦を準備している。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・ 売上が伸びない。美容用品の販売は、例年お盆前に売上が上がる傾向にあるが、ここ何年間かはその傾向がなくなっている。
		美容室（店長）	来客数の動き	・ 3か月前と比べると、来客数が大分減少している。
	悪くなっている	一般小売店【青果】（店長）	お客様の様子	・ 口蹄疫の影響で何とも言えない沈滞ムードになっている。さらにこの暑さで地元の野菜がなく、県外の野菜が高騰し、かなり厳しい状況にある。
		一般小売店【生花】（経営者）	販売量の動き	・ 花の消費は葬儀用の花、開店祝いのお花、上司への退職用の花等最低限必要な注文はあるが、ちょっとしたお祝いのお花としての需要がない。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・ 客単価、商品単価共に確実に年々減っている。消費者の収入が減っているのが要因である。衣料品だけでなく全般的な傾向のようであり、低単価のうえに数量も売れていない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ 口蹄疫の問題で大変なことになっている。3か月前は口蹄疫が始まってなかったが、それでも良い状況ではなかった。人の動きが全くなく、夏休みに入っても子どもの動きがほとんどない状態である。県外からの予約を含めてすべてキャンセルになった。どん底と言ってもいいぐらいの売上しかない。3か月前と比べると最悪の状態になっている。
		競馬場（職員）	販売量の動き	・ 前年同月比で相当な落ち込みがあり、それが継続している。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・ 官公庁の上半期80%の発注予定で7月は多くの工事が発注されている。急な発注で現在は、作業員の確保に苦労している業者もいる。

	金融業（営業）	取引先の様子	・製造業を中心に3か月前より受注が増加している取引先が多い。まだまだ低水準ながら安定してきている。今後の受注も見込まれるため、雇用を増やした取引先もある。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業のなかでも、売上高の増加を計画し、機材購入及び土地購入に関する資金調達の情報が出ている。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・取引先不動産業者の開発の復活などから3か月前と比べ良くなっている。
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・数字としてはまだ出ていないが、選挙が終わってから大分改善傾向にあるという話を良く聞く。7月は雨がひどかったり、暑い日が続いたり、厳しそうにみえるが割とうまく回っていたという企業の話も聞く。売上也複数の企業で過去の数か月よりも良くなっているという。
変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月中旬までは梅雨の影響で物の動きが悪く、口蹄疫問題も大きく影響した。後半は梅雨明けし、口蹄疫問題も終息に向かい、動きが良くなってきたが、前年に比べるとかなり厳しい状況にある。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・緩やかな回復基調にあった2～3か月前と比較して、また景気の停滞感を肌で感じるようになった。今回は一時的に回復しつつある景気の一服といったところである。家具の販売も、持ち直していたダイニングセットやソファなどの出荷が減っている。オフィス家具についても4月は前年比115%であったが5、6月は前年と同水準の出荷額、7月については前年を上回ることはない。
	鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量の低迷のみならず、新規物件が極端に減少しているため、販売価格が下落している。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と比べて変わりなく、引き合いについても順調である。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連の景気は、第一四半期の6月までは順調に推移してきたが、ここに来てやや停滞気味である。実質的に夏枯れの兆候か、これは一時的なものか、要注意して推移を見守りたい。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注量は処理能力をオーバーするぐらい入っているが、受注価格は下落傾向にあり、受注しても材料価格が上昇している。客の要望で受注価格が大変厳しい環境になってきている。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・当初計画から生産量の大きな増減はない。
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・車や家電の動向はエコポイントや補助金制度等により絶対好調である。観光についても回復傾向にあり、物流部門も期待しているが、まだまだ実感が少ない。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・預かっている荷物の荷動きにあまり変化がない。非常に安定はしているが、以前に比べると量が少ない。
	金融業（従業員）	それ以外	・商店街の店舗の廃業が今月だけでも5店舗あり、空き店舗が更に増加している。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・借入の申込状況を見ると、取引先の資金調達は前向きなものではなく、厳しいなか現状を維持をしていくための既存の借入が大半であるという状況から、厳しい状況に依然変わりはないと判断する。
	金融業（営業職 渉外係）	取引先の様子	・小売店等では徐々に販売量が増え、売上也ほぼ計画通りに推移している。運送業でも徐々に物流量が回復傾向にあるが、まだ景気悪化前の水準にはない。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・企業は新しい事に取り組むよりも守りの姿勢が強いので、コンサルティング関係の仕事は当面増えそうにない。
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・自社の受注量に大きな変化がみられず、また取引先も業況が大きく変化している先がない。
	その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年に比べ、5,000万円以上の大口案件がほとんどない。小口案件はボチボチあるものの、契約額合計では本年度に入り、継続して前年比マイナスの状態となっている。

やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・畜産関係の牛、豚等を販売する農業団体であるが、特に通常、ある程度豚肉の売上が上がる時期であるものの、景気が非常に悪く、7月に入りまた厳しい状況になっている。	
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節的に仕事量が少ない時期である。	
	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・取引先からの厳しい意見や提案ばかりである。全く明るい話は聞かれない。来年の受注もすでに減産の予定を出されている。	
	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・各社にて発注内容の見直しが厳しくなっており、社内での対応が可能かの見直しが多い。発注価格の低下傾向がみられる。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は前年よりやや悪くなっている。特注を取ったのでその分を上乗せしても、全体としては大変厳しくなっている状態である。夏場でもあり、焼物業界は低価格化傾向にあり、厳しい状態が続いている。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が回復しない。	
悪くなっている	経営コンサルタント	取引先の様子	・安売りで売上を確保していたが、それも限界である。安さより物を買わない傾向にある。メーカーも納入価格に限界がきている。	
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村の財源不足から建設工事の予算やコンサルタントへの委託業務の予算が減少し、発注量が減少しているため、売上の減少が生じている。建設コンサルタントでは、赤字への転落に歯止めがかかっておらず、人員の削減を余儀なくされている。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・欠員の補充がなかった企業も、補充をするケースが増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が2か月連続で増加している。有効求人数も2か月連続で増加している。新規求人数の増加の割合は6月現在で前年比25%のプラスとなっている。
職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が一般求人ですべて3か月連続、パート求人ですべて8か月連続の前年比増となった。このところ伸びが大きくなり、企業の採用意欲が若干出てきた。		
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新年度を迎えた4月も、人手を増やすまでの業務量はなく、それは今でも同じ状況である。今いる人員で対応できるまで今の人員で仕事をこなすという姿勢が多く企業の見受けられる。また、実際に、今の人員で対応できる状況が続いている。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣の新規案件の受注もあるが、人員削減による終了もある。半導体分野での需要が復活しているが、事務スタッフの派遣については今のところ動きはない。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業側も求人すると必要以上に募集が集まるため、給与面含めて低い設定にすることで人件費を抑えている。決して労働者に対してメリットはない。	
	新聞社〔求人広告〕	求人数の動き	・実績は前年すでに落ち込んでいたこともあり前年の数字に近づきつつあるが、求人数の動向は依然として変わらない。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・求人数は増加しており、エコ関連産業にも明るさがみられる。一方で円高が進んでいることも影響し、景気動向はあまり変わらない。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・来春の大卒求人の動向をみると、大変厳しいものがある。景気が悪くなっているというより、いい人材しか採らないのが現実である。景気は、悪い状況でもなく、良い状況でもない、守りの状況が続いていることを就職状況から感じる。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年比0.5%減とほぼ前年並みである。ここ数か月の新規求人数をみても、季節的要因を除くと企業の採用意欲は横ばい状態である。	
	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・当初採用するといった企業が、採用を取りやめたり、逆に予定のなかった企業から求人票がきたり、動きに一貫性が感じられない。	
	学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・大手総合職の求人活動はほぼ終了し、女性向けの一般職や地場中小企業で求人活動の動きが一部見受けられる。求人規模の拡大はなく、低調なままである。求人件数は、前年と比べても落ち込んだままである。	

やや悪くなっている	人材派遣会社 (社員)	それ以外	・夏の賞与が前年より低く、部長職以上の給与カットが決まっている。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人の取扱件数が前年並みの水準にあったが6、7月とやや落ちている。
	学校[専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・緊急経済対策ならびに緊急雇用対策の求人が減った。
悪くなっている	-	-	-